Bandai Namco Filmworks Newsletter

2026 年 11 月 20 日

バンダイナムコフィルムワークスの IP 創出力強化
SUNRISE Studios の進化し続ける創造力と挑戦。

Interview_シリーズ新作が拓く新たな可能性『装甲騎兵ボトムズ 灰色の魔女(ヘクセ)』
Topics1_スタジオ共創による進化:「サンライズ×シャフト」初タッグで手掛けるアニメ「フールナイト」
Topics2_オリジナル IP の育成:アニメ、音楽、キャストがつなぐ物語 『前橋ウィッチーズ』の挑戦

株式会社バンダイナムコフィルムワークスは 2025～2027 年度中期計画において「IP 創出力の強化」を重点戦略の一つに位置付け、オリジナル IP の創出・育成や多彩な IP をつくる制作力強化を進めています。

50 年にわたり様々な作品を生み出してきた自社制作スタジオの SUNRISE Studios(サンライズスタジオ)では、500 を超えるライブラリ作品を次の世代へつなぐ一方、社内外のパートナーと協業し、新たな作品の創出・育成にも取り組んでいます。今回は、長年愛されてきた IP の新展開に挑戦した『装甲騎兵ボトムズ 灰色の魔女』、シャフトとの協業によるアニメ「フールナイト」、映像と音楽の連携で長く愛される IP の育成に挑む『前橋ウィッチーズ』の 3 作品を通じ、「IP 創出力の強化」を支えるサンライズスタジオの作品づくりについてご紹介します。

Interview_シリーズ新作が拓く新たな可能性『装甲騎兵ボトムズ 灰色の魔女(ヘクセ)』

1983 年の放送開始以来、長く愛されてきた『装甲騎兵ボトムズ』。その 15 年ぶりとなるシリーズ最新作、

サンライズ 50 周年記念作品『装甲騎兵ボトムズ 灰色の魔女』を、11 月 20 日(金)より劇場公開します。長年にわたり築いてきた作品の魅力を受け継ぎながら、これまで『ボトムズ』に触れてこなかった人にも届く作品を、どのようにつくり上げたのか。制作プロデューサーの小橋泰文と企画プロデューサーの操上弘貴に話を聞きました。



――守るべきものを見極め、今の時代の作品へ

小橋:本作はシリーズの完全新作となりますが、まず制作にあたり“『ボトムズ』を『ボトムズ』たらしめているものは何か”を見極めることを意識しました。AT(アーマードトルーパー)※のローラーダッシュや武装といった、シリーズを象徴するエッセンスは受け継ぎながら、「今の時代に戦争があり、そこに AT が存在したら、どのように見えるのか」という視点で新たな表現を模索しています。過去作をそのまま再現するのではなく、受け継ぐべきものと現代的な見せ方とのバランスを、監督やスタッフとの対話を重ねながら探っていきました。

※AT(アーマードトルーパー):作中に登場する人型の主力搭乗兵器

操上:これまでの作品を知っている方には、『ボトムズ』という世界の新たな広がりとして、初めて触れる方には一本の新作として楽しんでいただける作品になっていると思います。

――オリジナル作品だからこそ生まれる、物語とキャラクターの奥行き

小橋:今回の物語の中心となるのは、謎多き女性アッシュです。押井監督がつくった物語の骨格に、アニメーターや制作スタッフがそれぞれの解釈を重ねることで、キャラクターが次第に自ら動き始める。そうした制作過程が、物語やキャラクターの奥行きを生み出しています。監督、クリエイター、制作、プロデュースなど、異なる立場の人たちが「こうしたら、もっと面白くなるのではないか」と意見を交わし、つくり方だけでなく届け方についてもアイデアを出し合う。ときには異なる考えをぶつけながら、一つの作品へとまとめていく、その積み重ねが、“いいもの”を生み出し続けてきたサンライズスタジオの作品づくりを支えていると思います。

――Production I.G との協業が生んだ“新しい味”

小橋：Production I.G との協業も大きなポイントです。同じアニメーション制作会社でありながら、それぞれが培ってきた作品へのアプローチや、監督・クリエイターとの向き合い方には異なる特徴があります。制作では、押井監督ならではの個性をどのように映像へ落とし込むかを考えながら、サンライズスタジオが培ってきた作品づくりと届け方の視点を加えていきました。どちらか一方のスタイルに寄せるのではなく、異なる文化や経験を持つスタッフが、同じ目的に向かって意見を交わす。その掛け合わせが、本作ならではの新たな魅力につながっています。

――ファンの期待を大切にしながら、新しい入口をつくる

操上：15 年ぶりとなるシリーズ新作において、大きなテーマの一つとなったのが、これまで『ボトムズ』を知らなかった層へのアプローチです。長年のファンが大切にしてきた作品の魅力を守る一方で、「昔の作品」「知識がなければ楽しめない作品」という印象だけで距離を置かれることがないよう、新しい入口づくりにも取り組みました。作品のタイトルやティザービジュアルにも、その考えが反映されています。メカだけではなく、女性主人公の存在や印象的なキャラクターデザインを通じ、ロボット作品になじみのない方々にも関心を持っていただくことを目指しました。また、デザインもあえてキャラクターを印象的に見せる構成にして、劇場にポスターが並んだときに目を引き、作品の大作感や新しさを直感的に伝えることを意識しています。

――“好き”の連鎖が、IP を次の時代へつないでいく

操上：長く愛される IP に育てるために重要なのは、やはりまずは多くの人に見ていただき、好きになってもらうこと。押井監督が『ボトムズ』を好きだったからこそ今回の新作が生まれ、クリエイターの中にも「『ボトムズ』ならやりたい」と参加した方がいらっしゃると思います。つくり手の「好き」が作品に込められ、それがファンにも伝わり、また誰かの創作意欲を刺激していく。そうした連鎖が、作品を次の時代へつなぐ力になると思っています。

小橋：つくり手自身もその作品を好きになることは、とても大切なことだと思います。そして、自分たちが愛したキャラクターがファンの皆さんにも愛してもらえる。アニメに関わる人間としては最高の幸せです。そのためにも、クリエイターの皆さんが楽しみながら作品を生み出せる環境をつくるのも私たちの重要な仕事だと思っています。

株式会社バンダイナムコフィルムワークス
IP 制作本部 制作部　サンライズ第 6 スタジオ　小橋泰文
2011 年、株式会社サンライズ（現バンダイナムコフィルムワークス）に入社。『機動戦士ガンダム UC』でアシスタントプロデューサーを務めた後、数々の作品に携わる。現在は、2027 年 4 月より展開予定の『機動戦士ガンダム RG XREX-ZERO（アレックス　ゼロ）』でプロデューサーを務めている。

IP 事業本部　第 3 プロデュース部　操上弘貴
2019 年株式会社バンダイナムコアーツ（現バンダイナムコフィルムワークス）入社後、『転生したらスライムだった件』第 2 期でアシスタントプロデューサーを務める。その後プロデューサーとして『転生貴族、鑑定スキルで成り上がる』シリーズ、『杖と剣のウィストリア』Season2 などを担当している。2021 年発売の「装甲騎兵ボトムズ Blu-ray Perfect Soldier Box」の制作も担当した。



左から操上、小橋

Topics1_スタジオ共創による進化：「サンライズ×シャフト」初タッグで手掛けるアニメ「フールナイト」



サンライズスタジオと、「魔法少女まどか☆マギカ」シリーズなど独自の表現手法でアニメファンを魅了する「シャフト」が初タッグで制作を手掛けるアニメ「フールナイト」（原作：安田佳澄）が、2026 年 11 月 26 日（木）より配信されます。本作は、サンライズスタジオが培ってきた世界観構築と作品づくりの力に、シャフトならではの映像表現や演出の感性を掛け合わせ、原作が持つ作品の魅力を丁寧に映像へと落とし込んでいます。異なる制作文化や経験を持つスタジオが、それぞれの強みを持ち寄ることで、アニメーションだからこそ生まれる新たな表現に挑戦しています。

さらに、Netflix での世界独占配信を通じて、国内だけでなく世界中の視聴者へ作品を届けます。原作の持つ力を起点に、社外のクリエイターや制作会社、グローバルな配信プラットフォームと連携するなど、多様なパートナーとの協業によって作品の可能性を広げてまいります。

Topics2_アニメ、音楽、キャストがつなぐ物語 『前橋ウィッチーズ』の挑戦



『前橋ウィッチーズ』(2025 年 4 月放送)は、完全オリジナル作品として、サンライズスタジオとバンダイナムコミュージックライブがそれぞれの強みを発揮し、企画段階から映像と音楽を密に連携させながら、一体となって作品をつくり上げてきました。テレビアニメ放送後もその連携は続いており、声優アイドルグループ「前橋ウィッチーズ」によるライブでは、シリーズ構成・脚本を務めた吉田恵里香氏による書き下ろしのストーリーを朗読劇として上演するなど、アニメで描いた物語を音楽やライブへと広げ、作品をより深く楽しめる機会を生み出しています。

さらに、新たな展開として 2026 年 10 月に劇場総集編『劇場版 前橋ウィッチーズ～魔女見習いのエモエモリーズ～』を公開し、2027 年 1 月 15 日・16 日には、劇場版を追体験できるライブ「劇場版『前橋ウィッチーズ』ライブ ～EPISODE of EMOEMORIES～ Chapter 1 to 5」を、バンダイナムコベースが運営する今夏オープンしたライブホール「Shibuya LOVEZ」にて開催します。

劇場版 前橋ウィッチーズ LIVE EPISODE of EMOEMORIES Chapter 1 to 5

これまでにも当社はラブライブ！シリーズなど、映像と音楽に強みを持つグループ会社が密に連携し、作品の創出から音楽、ライブへとその世界を広げてきました。長年培ってきた制作力を基盤に、継続的に作品を生み出しながら、そこから生まれた IP を、グループの力で様々な形で広げ、長く育てていけることも、サンライズスタジオの強みの一つです。

長年愛されてきた IP の魅力を様々な形で引き出すとともに、新たな IP の創出にも挑戦し続ける。バンダイナムコフィルムワークスは、サンライズスタジオが培ってきた IP 創出力と、社内外の多様なパートナーとの連携を生かしながら、これからも世界中の人々に長く愛される作品を生み出し、育て、届けてまいります。

【公式サイト】
・「サンライズ 50 周年」プロジェクト:https://www.sunrise-inc.co.jp/50th/
・『装甲騎兵ボトムズ 灰色の魔女』:https://www.votoms-gh.com/
・アニメ「フールナイト」:https://www.foolnight.com/
・『劇場版 前橋ウィッチーズ～魔女見習いのエモエモリーズ～』:https://www.maebashi-witches.com/

【著作権表記】
©SUNRISE
©安田佳澄／小学館／「フールナイト」製作委員会
©PROJECT MBW ©PROJECT MBWM

【取材のご依頼などは下記までお問合せください】
株式会社バンダイナムコフィルムワークス 経営企画部 コーポレートコミュニケーション課
pr-mail@bnfw.co.jp

BANDAI NAMCO Fun for All into the Future

株式会社バンダイナムコフィルムワークス

株式会社バンダイナムコフィルムワークスは、映像作品を企画、製作し、テレビ、映画、配信など様々なメディアを通してお届けするだけでなく、著作権・版権の管理運用、映像関連商品の企画・販売や映像関連サービスを通して、世界中の皆様に広く発信しております。川上から川下まで担う総合映像エンターテインメント企業として、“いいもの”を生み出し、しっかりと皆様にお届けし続けてまいります。

主な事業内容:アニメーションなどの映像コンテンツおよび映像関連サービスの企画・製作・販売および著作権の管理・運用
https://www.bnfw.co.jp/